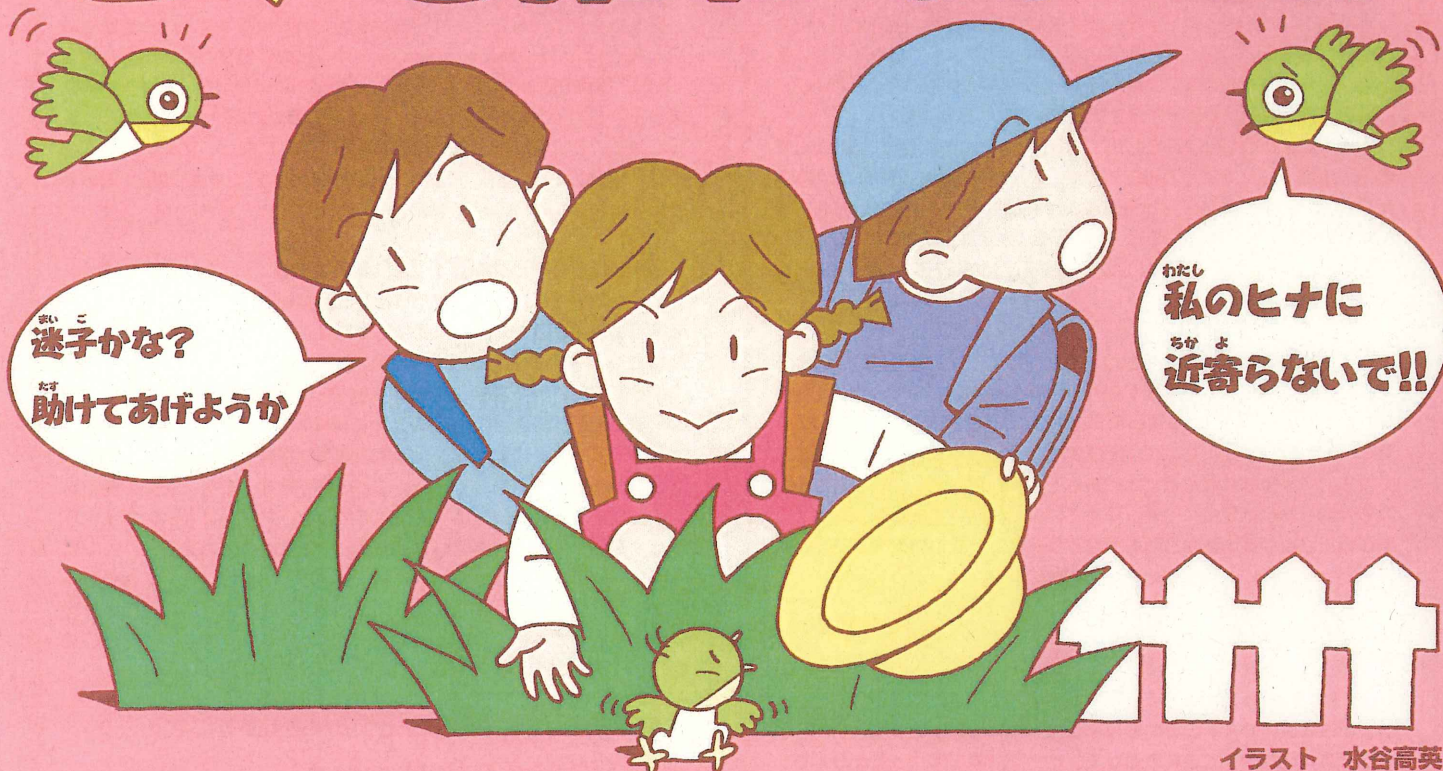


ひろ ヒナを拾わないで!!



「迷子かな？
助けてあげようか」

「わたくし
私のヒナに
ちかよ
近寄らないで!!」

イラスト 水谷高英

Q どうしてヒナが地面にいることがあるのですか？

A 野鳥のヒナの多くは、卵からかえって羽が生えそろうとすぐに巣立つので、巣から飛び出す段階ではうまく飛べずに落ちるものもいます。でも、けがをしていなければ、親鳥が給餌や誘導をするうちに、少しずつ飛べるようになって考えられます。

Q ヒナを見つけたときは、どうしたらよいのでしょうか？

A 巣立ち直後のヒナはあまり動きません。親鳥は人がヒナの近くにいると警戒してやって来られません。ヒナに手を出して親子を引き離すと「誘拐」になるので、その場を立ち去る方がよいでしょう。

Q ネコやカラスに食べられないでしょうか？

A 心配ならば、ヒナを近くの茂みの中に置いておくこともできます。親鳥は姿が見えなくても、ヒナの声で気づくことができるでしょう。

Q 人がヒナを育てることはできないのですか？

A たくさんの虫を与え続けるなどすれば、育てられることもあります。ただ、自然界では巣立ち後に親鳥と過ごすわずかな期間(1週間から1ヶ月)に「何が食物で、何が危険か」などを学習してひとり立ちするので、人に育てられたヒナは自然の中で生きていけるとは限りません。

なお、けがをしている、希少種など、放っておけないと判断される場合は、裏面を参照して自治体などに相談してください(野鳥は許可なく捕えたり、飼うことはできません)。

共催/(公財)日本鳥類保護連盟 ☎03-5378-5691 (公財)日本野鳥の会 ☎03-5436-2622 NPO法人 野生動物救護獣医師協会 ☎042-529-1279 後援/環境省

私たちも応援しています

- | | | | | |
|--|--------------|-----------------|-------------------------------|----------------------------|
| (株)アシスト わんわん倶楽部 | 大阪府 | 学研グループ | サントリーホールディングス(株) | (宗)真如苑 |
| 東亜建設工業(株) | 栃木県 | 丸和油脂(株) | (株)ユーキャン | (株)レオニス |
| 株木建設(株) | (株)共立商会 | 群馬県 | 光村印刷(株) | 日本印刷(株) |
| 日本野鳥の会茨城県 | FUJINAGA | (株)文星閣 | ムナテックス(株) | 八ヶ岳倶楽部 |
| (社)愛知県獣医師会 (社)秋田県獣医師会 (社)石川県獣医師会 | インソップ薬品(株) | 狼森(おいのもり) | (公社)大阪市獣医師会 (社)大阪府獣医師会 (株)オオバ | カロラータ(株) |
| (社)北九州市獣医師会 (社)岐阜県獣医師会 (社)京都市獣医師会 | (社)京都府獣医師会 | 京都野鳥の会 | (株)キリカン洋行 (株)キングジム | 寿精版印刷(株) KOWA (株)サカタのタネ |
| 三菱電機(株) (社)静岡県獣医師会 NPO法人 自然環境アカデミー | 神宮司庁 | 高尾霊園犬猫墓地 | (公社)千葉県獣医師会 | 中央法規出版(株) DSファーマアニマルヘルス(株) |
| 東京環境工科専門学校 福東京コロニー (社)東京都獣医師会 | 東北緑化環境保全(株) | (公財)動物臨床医学研究所 | (社)栃木県獣医師会 | 鳥取県 富山県鳥獣保護センター |
| (社)長崎県獣医師会 長野県 (公社)名古屋獣医師会 (公社)新潟県獣医師会 | (社)日本獣医師会 | (公益社)日本動物病院福祉協会 | 日本野鳥の会奥多摩支部 | (株)博展 |
| ビジョン(株) (株)ブレックス (株)フレームマン | 文永堂出版(株) | 文化堂印刷(株) | (財)ホシザキグリーン財団 | (社)北海道獣医師会 (公社)三重県獣医師会 |
| 武蔵村山ペットメモリアルパーク | メリアル・ジャパン(株) | 森久保薬品(株) | (株)モンベル | 野生動物ボランティアセンター |
| (社)山口県獣医師会 (株)ユニバーサルカラー | (財)横浜市緑の協会 | (株)吉元 | 予防医学教育研究所 | (株)龍名館 |
| | | | | 和歌山県 (社)和歌山県獣医師会 |

この印刷物は、環境負荷低減のため「FSC認証紙」(VOC(揮発性有機化合物)ゼロの100%植物油インキ)を使用しています。また、印刷は有害な廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。



① 鳥や自然について知ろう (手を出す前に)



② ヒナを助けるには

<ヒナがすぐに巣立つわけ>

自然界での命の原則は、他の生物の食物になること。野鳥の世界も毎日命がけですが、わずかでも生きのびれば1年で大人になって子育てを始め、毎年繰り返します。つまり、生き残る方が少ないので、たくさんの卵を産み、短期間でヒナを巣立たせなければなりません。

スズメでは5個くらい卵を生み、かえったヒナは約2週間で巣立ち、その後1週間くらいを親子で過ごしてからひとり立ちし、親鳥はまた卵を産むというサイクルを、春から夏にかけて繰り返すようです。なお、巣立ちまでの期間は、メジロやヒヨドリでは10日ほどしかなく、シジュウカラ・ツバメ・ムクドリの中には、3週間ほどかかるものもいます。

<ヒナの成長を支える虫>

鳥も私たち人間と同じで、他の命を食べなくては生きていけません。特に鳥は、活動的に空を飛ぶために体重を増やせないで、食べてはすぐにフンを出すことを繰り返します。体重15グラムほどのシジュウカラでも、1年間に必要な虫は10万匹を超えるという試算もあるほどです。

秋冬に虫が少なくなると、木の実などの植物質も食べるようになる小鳥も少なくありません。でも、子育てには高栄養で消化しやすい虫が必要なので、虫が多い春から夏を子育てシーズンとするのが普通です。スズメでさえも、ヒナを巣立たせる2週間に親鳥が虫を運ぶ回数は、4千回を超えるといわれています。

<自然の仕組みから学ぼう>

虫に食べられる植物にとっては、虫を食べる小鳥が必要です。でも、小鳥が虫を食べつくすことはありません。それは、小鳥が増えすぎないからです。毎年子育てをくり返して、ヒナが無事に巣立ったとしても、自立、移動、越冬などの試練が続くので生きのびるのはわずか。一方で、そうして弱ったり死んだ鳥が食物となって、肉食性や雑食性の鳥などの命を支えているのです。

命の大切さは、このようにさまざまな生物が共存し、持続する自然のしくみとともに再認識されなくてはなりません。2005年から国連「持続可能な開発のための教育の10年」、2011年からは「生物多様性の10年」が始まりました。さまざまな生物のつながりから学び、持続可能な未来を目指すべき時代になったと言えます。

<誰にでもできること>

野生の命を助けることは専門家でも難しいものですが、虫を殺さない、虫が食べる植物を残すなど、誰でも小鳥のためにできることがあります。もし、羽がそろっていないようなヒナが落ちていた場合は、巣立ち前に巣から落ちたのかも知れません。近くに巣があるはずなので、そこに戻してやることで助けられる可能性があります。ただし、ヒナにさわるとは、手袋をするなどして安全や衛生に気をつけましょう(親鳥が匂いを気にすることはあまりないと考えられます)。

<手を出す場合/救護するには>

ヒナが明らかにけがや病気だったり、自然が豊かな地域では数少ない希少種のヒナが落ちている可能性もあります。放っておけないと判断した場合は、各都道府県の鳥獣保護担当部署に相談して指示をあおぐようにしてください。なお、「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律(鳥獣保護法)」によって、保護のために飼育する場合にも許可が必要です。行政のアドバイスによって、野鳥の救護や保護飼育に取り組んでいる施設に持ち込めば対応してくれることもあります。ただ、野鳥の保護飼育や自然に帰すための知識や技術はまだ確立されているとはいえません。もともとヒナの生存率は低いのでは助けるには大変な努力を要し、人に慣れてしまい自然に戻せなくなる鳥もいることや、施設についてもボランティアで運営されている場合も多く、すべてを受け入れることはできないことも知っておきましょう。また、ドバトやカラスなど増えすぎて問題とされる鳥、外来種などは対応してもらえないこともあります。

<自分で一時的に助けようとする場合に参考になるもの>



『野鳥をたすけるはじめての一步
(身近な野鳥の救護・保護のためのハンドブック)』
野生動物救護獣医師協会発行 ¥1,500(税込)

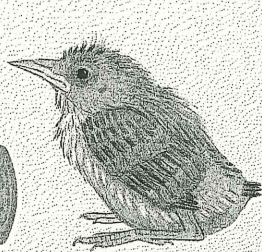


すずめっ子クラブ
http://www.asterisk-web.com/sparrow_club/
特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会
<http://www.wrvj.org/>
(公財)日本鳥類保護連盟 <http://www.jspb.org/hina/hina.html>
(公財)日本野鳥の会 <http://www.wbsj.org/>
(ここからポスターのダウンロードもできます)

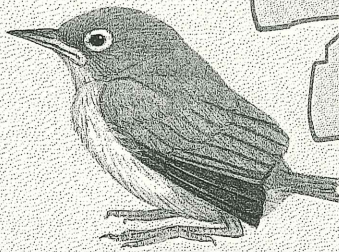
メジロの「巣立ち前のヒナ」と「巣立ち直後のヒナ」

目がきちんと開いていないこともある

羽毛が生えそろっておらず、親鳥より小さく、赤裸や地肌が見える状態のこともある



巣立ち前のヒナ



巣立ち直後のヒナ

羽毛は一通り生えそろっているが、上手く飛べないことがある

羽ばたいていたり、親鳥を追ったりするうちに次第に飛べるようになる

親鳥より尾羽が短いことが多いので、体の大きさは親鳥に近くなるが、少し小さく感じる人が多い

このポスターを目立つ所に貼ってください!

日本鳥類保護連盟とは・・・

日本鳥類保護連盟は、野生鳥獣に関する科学的知識と鳥獣保護の精神を広く普及するために、1947年に創設された公益法人です。毎年、愛鳥週間(5/10～16)に行われる「全国野鳥保護のつどい」をはじめ、「全国野生生物保護実績発表大会」、「愛鳥週間用ポスター原画コンクール」など、多くの活動を国や地方自治体などとも行ってまいりました。野鳥をまもるには、野鳥が巣をつくる場所やエサとなる小動物など自然全体をまもることが必要です。そのため1960年に創刊した機関誌「私たちの自然」では、植物を含めた鳥以外の生きものも一貫して取り上げています。



公益法人 **日本鳥類保護連盟**
Japanese Society for Preservation of Birds

【お問い合わせ先】 166-0012 東京都杉並区和田3-54-5 第10田中ビル3F
TEL: 03-5378-5691 FAX: 03-5378-5693 <http://www.jspb.org>

会員を募集!

野鳥やそれを取り巻く自然をまもるためには、多くの方の力が必要です。いつでもどなたでも入会できます。

- 特別支援会員・・・1口 10,000円
- 正賛助会員・・・1口 5,000円
- 普通賛助会員(学生・生徒)・・・1口 3,000円
- 法人賛助会員・・・1口 20,000円

※入会すると、会員証・会員バッジ・年10回機関誌「私たちの自然」をお送り致します

バードピアに登録しよう!

バードピアとは、自宅の庭や企業の敷地などの一部を野鳥などの生きもののために整備して提供しようとするものです。バードピアが増えれば、生物多様性に富んだ街づくりを進めることができます。バードピアの輪の広がりを実感してもらうために登録制にしています。登録者には、シリアル番号が入った登録証を無料配布しています。皆様のご登録をお待ちしています!

